

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○4月6日～

先週の相場も中東情勢に左右され、原油は再び上昇、株価も乱高下し、不安定な動きが続いています。為替市場は比較的落ち着いた動きをしていますが、ニュース次第で上下どちらにも動くリスクがあります。

最近の報道では米国とイランの発言が真逆ということも多く、悲観と楽観が入り乱れている状態です。ただし、ホルムズ海峡の状態を冷静に見ると楽観的にはなれません。

トランプ大統領は今後2～3週間でイランに激しい攻撃をする可能性も示唆しているため大規模な攻撃が始まると再びマーケットはリスク回避の動きが強まる可能性があります。

株価は下げ方がまだ足りないという話もあり、もう一段下げがあってもおかしくない状況です。さらに、物資が届かないことで実体経済にも影響が出始めているため本格的な相場の調整はこれから起きる可能性もあります。

為替市場は有事のドル買いが続くかどうかポイントになりそうです。

先週末に発表された米国の雇用統計は、予想よりも強い結果となりましたが多くの国が祝日ということで、相場はあまり反応していません。

強い雇用でFRBの利下げの可能性が遠のいたと考えれば、ドル高要因になってきます。

イースター明けに米国が動き始めるかもしれません。

トランプ大統領がイランに対する攻撃を延期するといっていた期限(日本時間7日午前9時)が到来するためニュースを注意して見ておく必要があります。

そして、イランも米国への報復として、米国企業(AIや半導体関連)への攻撃を予告しています。

具体的な企業名もあげており、もし中東地域にある米国企業のデータセンターなどへの攻撃が激しくなれば、米国株だけでなく世界の株価に大きなマイナスとなります。

原油も再び1バレルが100ドルを超えてきました。

3月につけた高値の1バレル=120ドルを超えていくと円にとっては悪材料となってきます。

前回120ドルを超えたのはロシアがウクライナに侵攻した2022年ですが、当時のドルのレートは1ドルが110-120円程度でした。

過去にも何度か原油が100ドルを超えたことはありますが原油高の時は円高になることが多く、今回のような円安と原油高という組み合わせは初めてです。

ということで、今回の原油高は、より日本にとって深刻になるということです。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

先週は高値圏での推移が続いています。

158 円台まで下落した後、再び上昇し、159 円台でマーケットが終わっています。

160円あたりでは介入警戒感が強まるため上値が重くなる動きとなっています。

上値は前回高値の160.5円あたりを超えると162円あたりまでテクニカルで見た抵抗はあまりなく、いつ介入が入るかわからないこともあり、急落や急騰が短時間で起こるリスクがあります。

買う場合は、158 円台か 159 円あたりで買う方がリスクが少なく、160 円超の高値買いは避けたいです。

下値は、159.2 円を割り込むと158.2 円あたりのサポートが意識されます。

ここも割り込むと157.5円が下値のメドとなります。

<気になるクロス円>

クロス円も高値圏での動きが続いているペアが多く、方向感がわかりにくいです。

ユーロはイランへの攻撃があった2月末以降、181.8—184.8円程度のレンジを動いています。

レンジを上をブレイクすれば、再度 186 円台を目指す動きが期待できそうですが下抜けた場合、大きな調整が起こるリスクがあるため注意がいります。

オセアニア通貨(豪ドル・NZ ドル)やカナダドルも週足でも下げてきていることから、慎重に取引した方がよさそうです。

ドル高相場が続けば、クロス円も下落してくる可能性があるためチャートを確認してからポジションを考えたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では 2 月貿易収支などがあります。

米国では 3 月ISM非製造業景況指数、2 月耐久財受注、FOMC議事要旨、10—12 月期GDP(確定値)、2 月個人消費支出(PCEデフレーター)、前週分新規失業保険申請件数、3 月消費者物価指数、2月製造業新規受注、4 月ミシガン大学消費者信頼感指数、3 月月次財政収支などの発表があります。

欧州では、ユーロ圏とドイツで 3 月サービス業PMI(改定値)、ユーロ圏で 2 月小売売上高、2 月卸売物価指数、ドイツで 2 月製造業新規受注、2 月鉱工業生産、3 月消費者物価指数などがあります。ほかには、ニュージーランドで政策金利の発表などがあります。